

と実験実習との関連を図るなど、即物的な指導を配慮するように努める。

(三) 教育課程の編成に当たっては生徒の適性や進路等を勘案し、希望する科目の選択ができるよう工夫する。

二 実験・実習の充実を図る

(一) 各学科の目標・性格に照らして、実験実習の内容の精選と重点化を図り、指導方法としては、評価のあり方について研究を進める。

(二) 学習効果を高めるための座学と実験実習の融合化を図る授業を進める。

(三) 実験実習の内容に応じて、一斉学習、個別学習、個別学習など適切な学習形態について研究する。

(四) 施設・設備の点検整備と活用を図るとともに、安全教育の徹底に努め公害に関する教育にも配慮する。

三 新設科目「工業基礎」「工業数理」の実践研究に努める

(一) 「工業基礎」においては、生徒が主として製作実習を通じて成就感や成功感を体得し、工業の本質にかかわる考え方に強い興味関心を抱き、専門科目学習への意欲を持つよう指導する。

(二) 「工業数理」の題材は、生徒の生活に関連がある自作題を開発し指導展開のなかに、実測、作図・図表、

計算等の作業を取り入れるなど体験学習を通して指導する。

四 指導力の向上を図る

(一) 科学技術の著しい進歩発展と時代の要請に対応した新しい内容について、教材化の工夫研究を進め、常に教育内容の現代化とともに指導技術の向上に努める。

(二) 多様化した生徒の実態に即応する指導方法の研修に主体的に取り組み校内における組織的・計画的な研究会を継続的に推進する。

(三) 自主的研究団体の研究会にも進んで参加し、産業界や各種研修機関を利用しての研修機会も効果的に活用するよう努める。

商業

新学習指導要領においては、商業教科の目標を「商業の各分野に関する基礎的、基本的な知識と技術を習得させること」「国民経済における商業の意義や役割を理解させること」「商業の諸活動を合理的、実践的に行う能力と態度を育てること」「経済社会の形成者として望ましい資質を養うこと」の四点においている。

新要領の五十七年度からの実施に

伴い、その趣旨を具体的にいかに取り入れて実効を挙げるかが、これからの大きな目標である。新要領の意図を生かして創意と工夫をこらして新たな授業を創造し、生徒一人一人の学習理解が深まるように努める。

一 基礎的・基本的な教育内容の充実を努める

(一) 能力と適性等多様な生徒が入学している実態から、生徒一人一人の理解に努め、個々の生徒の到達度に応じた指導を行う。

(二) 商業教育の基礎的・基本的な内容を取り扱う商業一般、簿記会計1、計算実務、電子計算機一般などの学習指導に当たっては、これらの基礎学力が、その後の発展的な学習への十分な転移力となり得るよう、指導計画と展開方法を吟味し、改善に努める。

二 指導内容・指導方法について改善を図り、学習意欲を高めるようにする

(一) 生徒の発達内容からみて、指導内容が広範囲かつ高度にわたらないよう指導内容の精選、重点化を図り、生徒が自ら学習に意欲を持つことができるよう配慮する。

(二) 視聴覚機器の利用、発見学習の導入など、可能な限り各種指導方法についての検討を行い、商業教育に最

適な指導方法を実践することにより指導の効率化を図るとともに、生徒が商業教育に一層の興味関心を持つよう努める。

(三) 授業の展開方法について、学習目標・学習内容等の観点から研究を加え、生徒の学習理解が更に高まるような授業研究を積極的に推進する。

三 実際の・体験的学習を通じて生徒が創造的に問題を解決する能力を養う

(一) 地域社会を含めた生徒の生活環境の中に存在する様々な事例をとらえて、教材がごく身近なところにも存在することを理解させ、将来の経済社会のよりよき形成者として、生徒が自ら学習する態度と資質を養う。

(二) 商業各科目とも、実験・実習等を通じて生徒に積極的に成功や失敗の体験を学習させることにより、困難な問題を実践的に解決する創造的な能力を養うことに努める。

(三) 五十八年度からの実施に備え、新科目「総合実践」についての研究を積極的に推進する。

四 教師の指導力の向上を図る

(一) 生徒の実態に即応する授業研究、教材研究等、校内研究体制を確立する。

(二) 各種研修機会の積極的な活用を努